

会長：高野正志

顧問：増澤康雄

2021年度・代々木会活動の一つとして**東海大学工学部動力機械工学科同窓生を応援しよう。**

東京パラリンピック・自転車競技

日本代表「藤田征樹選手（36）」が参加

「世界の舞台で疾走する不屈のアスリート藤田征樹選手」

【東京2020パラリンピック】2021年8月24日(火)

- ・ **時間** : 20:00 ~ 23:00 ・ **会場** : **オリンピックスタジアム**

いよいよ「東京パラリンピック」が開催されます。我東海大学工学部動力機械工学科を卒業しました「藤田征樹」氏が自転車競技の日本代表選手に選ばれました。
選考経過

*2021年6月18日 東京パラリンピック、自転車の日本代表に4大会連続のメダル獲得を目指す**藤田征樹選手（36）**など3人が新たに内定。日本パラサイクリング連盟によりますと6月14日に東京パラリンピックの日本の出場枠が男女2枠ずつとなったことが国際競技団体から発表された。

これを受けて国内で選考が行われ、男子は両足が義足でパラリンピックのロードとトラックでこれまで5つのメダルを獲得している**藤田征樹選手**と右足でペダルをこぎパラリンピックは2大会連続出場となる**川本翔大選手（24）**を代表に内定。

女子は右足が義足の**藤井美穂選手（26）**が初めてパラリンピック代表に内定。

女子では既に内定している**杉浦佳子選手（50）**をあわせた4人が日本代表として東京パラリンピックに臨むことになりました。*

■藤田征樹選手（36）について

北海道稚内、1985年1月17日生。

小学生でスピードスケート、中学・高校では陸上、大学ではトライアスロンを経験してきましたが故郷で大学2年の時に交通事故に会い膝関節から下両脚を失う大事故となってしまいました。彼は入院中から「義足でスポーツをすることばかりを考えてリハビリに集中されたのでした。

リハビリが終えて退院直後に日常用の義足でロードレーサーにまたがると思いの外スムーズに走らせることができた！と感じた。のでした。

最初のスポーツ義足は東京の鉄道弘済会から義肢装具士の紹介を受けて自分の義足を製作される義肢装具士に綿密なまでに自分の考えや思いをとことん伝えて満足いく義足を製作して行かれたとの事でした。

この時が、大学2年で始めたトライアスロンに出場することができる専門のスポーツ用義足を作るキッカケとなると共に目的であったようです。

“はじめて義足を借りて走ったら跳ねるように走る事が出来てすごく楽しかった”という記憶が残っていると話をされております。

トライアスロンですから水球もあります。水球の為の義足を作りこの大会に出場されたのでした。

ニュージーランドで開催されたトライアスロンレースにも挑戦し3種目、226Kmを完走されております。ここでの本人の言葉

“僕にとって競技用義足は自転車に乗るための機材であり自分の体でもありますので両方の面があります。”

義足でパラ自転車を始め 2007年（22歳）で日本代表入りをして以来、数々の選手権に出場し見事なる成績を獲得されております。

何という精神力でしょうか。バイタリティ・溢れるパワーが途切れることなく14年間も継続されている藤田征樹さんには心から応援をしていきたいと考えます。

■社会人としての顔

2019年4月から生まれ育った北海道稚内にあります「藤建設株」に勤務。平日勤務時は残業当たり前、終業時間後は屋内でローラートレーニングを中心に動き、休日にはロードワークをこなす日々を送っている。

現在、地元企業と言うこともあり凄く応援をしていただいているので頑張りがいがあるとの事です。

■パラサイクリング

障害の程度により適合するクラスに分かれ競技する。使用する自転車は通常の二輪（Cクラス）、三輪のトライシクル（T）、2人乗りタンデム（B）、ハンドサイクル（H）。レースには屋外を走るロードと傾斜のある専用走路バンクを使うトラックがある。藤田選手はC3のクラスで2016年リオ大会のロードタイムトライアル銀など、3回のパラリンピックで計5個のメダルを獲得されております。

■今日までの成績

◎2007年8月開催のトラック種目・[世界選手権（フランス・ボルドー）](#)では男子1kmタイムトライアル（LC3）で2位。

2007年11月に[コロンビアのカリ](#)で開催されたオープン・アメリカ大陸選手権では男子1kmTT（LC3）優勝、男子3km個人（LC3）2位の成績

2008年9月[北京パラリンピック](#)では[トラックレース](#)2種目（1kmTT、3km個人追抜）、[ロードレース](#)（個人TT、個人ロード）2種目に参加。[9月7日](#)に行われた男子1kmTT（LC3-4）では銀メダルを獲得。

北京パラリンピックにおける功績が認められ[北海道栄誉賞](#)が授与された。

又、この功績により[稚内市観光大使](#)の委嘱を受ける。

[2009年11月](#)の[UCIパラサイクリングトラック世界選手権（英国・マンチェスター）](#)では男子3km個人追抜（LC3）で2位、男子1kmTT（LC3）で1位の成績を収める。

[2010年12月](#)の[アジアパラ競技大会](#)自転車トラック競技では、3km個人追抜（男女混合：男子C1-3、女子C1-5）で銀メダルを獲得した。

[2011年5月](#)には[UCIパラサイクリングロードワールドカップ](#)2011第1戦シドニー大会に出場、ロードレース（男子C1-3）で男子C3クラス3位銅メダル。

[2012年](#)は[ロンドンパラリンピック](#)代表選手に選出されトラックレースとロードレースの各2種目に参加し、トラックでは男子個人1kmTT（C1-3）で20位、男子個人追抜（C3）で9位。

[2016年](#)の[リオデジャネイロオリンピック](#)ではトラックレースとロードレースに出場、トラックでは男子個人1kmTT（C1-3）で11位、男子個人3kmP（C3）で予選5

位、混合チームスプリント 750m(C1-C5)は予選 8 位となる。ロードでは個人 TT(C3)で銀メダルを獲得、男子ロードレース(C1-3)は 13 位。